

東京都国民健康保険ハンドブックについてのお知らせ

「東京都国民健康保険ハンドブック(令和7年度版)」を発行します

本会では、国民健康保険事業に携わる実務担当者の手引書として「東京都国民健康保険ハンドブック」を発行しています。

東京都国民健康保険ハンドブックの改訂にあたっては、特別区・市町村・国保組合を代表する9名の委員及びオブザーバーである東京都に1年間ご協力をいただきました。

各保険者等への配布及び本会ホームページへの掲載は、5月中旬を予定しております。日々の業務の一助として、ぜひご活用ください。

*** 配布先は、有償分を含め保険者及び関係機関に限ります。**

NEWS

国民健康保険制度を巡る 諸課題について

国保講演会

1月8日 本会会議室



厚生労働省保険局
国民健康保険課長

唐木 啓介氏

厚生労働省の唐木国民健康保険課長による標記講演会には、国民健康保険運営協議会会長や区市町村の担当課長、国保組合の事務局長ら99名が参加した（Web参加者含む）。

唐木課長から、国保制度改革や予防・健康づくり、DXに向けた取組等について、現在政府で検討中の内容も含めご講演いただいた。

はじめに、日本の人口や年齢構成の推移について説明いただいた。政府全体として、2040年に向けた人口減少等に対し、全世代型の対応やDX、生産性の向上等を進めていく必要があると述べ、国民健康保険制度の足下の課題として、被保険者数の大幅な減少や、高齢化の進行の他、被用者保険の適用拡大による被保険者構成の変化や保険料が増加する一方、財源構成では保険料以外によるものが増加していく状況や一人当たり医療費の増加などがあり、それらの課題に対応するため、財政運営の安定化を図りつつ都道府県保険料率水準統一化や医療費適正化等の取組み等、国保制度改革を一層進めていく必要があると述べた。

さらに、全世代型社会保障構築を目指す改革の道筋（改革工程）の概要として、医療DXによる効率化、質の向上などの取組みを検討するとした。

予防・健康づくりは医療費適正化に直結する重要な課題であるとし、特定健診受診率や、特定保健指導実施率のスコアが高いほど健康寿命が優位に長い傾向が見られるという厚生労働省の研究結果を示した。

国保・後期高齢者ヘルスサポート事業について、データヘルス計画の策定や実施、糖尿病性腎症重症化予防プログラム等保健事業に係る取組みにあたって活用していただきたい、また、子ども・子育て支援金制度の概要について、令和8年度に向けシステム改修も含め遅滞ないよう、情報共有や保険者への支援を進めていきたいと考えていると述べた。

最後に、医療・介護DXの推進について、より質の高い医療やケアを効率的に提供する体制を構築するための基盤となるものと説明した。

マイナ保険証への移行に伴い、昨年12月健康保険証の新規発行を停止したが、マイナンバーカードがなくても「資格確認書」で保険診療が受けられることを医療機関・薬局、国民へ周知するとともに、公費負担医療の受給者証や診察券との一体化、医療費助成の効率化など利便性を高め、利用促進を図っていくことが重要とした。

また、電子カルテ情報共有サービスや電子処方箋管理サービス等、医療機関等間での電子的な情報共有によって質の高い医療を迅速に効率的に提供していくための方策等を講じていくと述べた。

参加者からは「持続可能な国保運営に向け構造的な課題などを理解できた」「国の会議などの資料についてポイントを押さえたご説明で概要の把握ができた」「各課題の現状や今後の見通し等が確認できた」「国保保険者として、取り組むべき問題を把握することができた」などの感想が寄せられた。

睡眠力をアップしてイキイキ生活 ～「健康づくりのための睡眠ガイド2023」より～

令和6年度 東京都在宅保健師の会 講演会
令和6年度 保健師講習会

3月12日(水) AP市ヶ谷



講師

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所
睡眠・覚醒障害研究部 部長
医学博士 **栗山 健一**氏

健康づくりにおける睡眠の意義について理解を深め、特定保健指導等へ活用することを目的に講演会を開催し、東京都在宅保健師の会の会員16名と保険者の保健師ら16名が参加した。

講演会では、「健康づくりのための睡眠ガイド2023」をもとに、睡眠と生活習慣病等発症リスクとの関係や、良質な睡眠が健康寿命の延伸につながるなどについて、科学的根拠を交え詳しく解説いただいた。

後半では、こども、成人、高齢者と年代別の睡眠に対する課題、対策を5原則としてまとめた「Good Sleep（ぐっすり）ガイド」についてもご説明いただき、住民の健康増進のためにぜひ活用してほしいと述べられた。

受講者からは、「睡眠について客観的データに基づいた学びをする機会を得られて良かった」「睡眠についてのエビデンスが明確で理解が進んだ」「睡眠については個人差があり保健指導にも苦手意識があったが、今日の内容を今後の保健指導に生かしたい」「睡眠についてどう住民に伝えるかのヒントを得られた」といった感想が寄せられた。

第26回 東京都在宅保健師の会 総会

3月12日(水) AP市ヶ谷



主催者挨拶

東京都在宅保健師の会
会長

石山 道子氏



来賓挨拶

東京都多摩府中保健所
地域保健推進担当課長

河西 あかね氏



東京都市保健師事務連絡会
会長
(武蔵野市健康福祉部健康課)

梅澤 陽子氏

第26回東京都在宅保健師の会総会が開催され、会員14名が参集した。

総会では令和7年度の事業計画等の議決事項について審議がなされ、全て認定された。

令和7年度役員については、推薦により会長及び副会長2名、さらに幹事4名の7名が再選された。

来賓として、河西あかね氏（東京都多摩府中保健所地域保健推進担当課長）、梅澤陽子氏（東京都市保健師事務連絡会会長）にご出席いただいた。

